



AQU 先端テクノロジー総研 《ニュースリリース》 2017/8/14

AIスピーカー、ヒアラブル端末、4人に1人が「欲しい」、関心度高い！
ヒアラブルのアプリ関心は、ナビゲーション、同時通訳が50%を超える！
スマホの次の大きな潮流はヒアラブル！
AIスピーカー、ヒアラブル端末需要調査報告書完成！ AQU 先端テクノロジー総研

<http://www.aqu.com/ai-speaker-hearable-need/>

<http://www.aqu.com/aqu-news/2017-8-14.pdf>

<http://www.aqu.com/ai-speaker-hearable-need/sample-1.pdf>

<http://www.aqu.com/>

ニュースリリース

内容サンプル

メインページ

AIスピーカー及び、ヒアラブル端末の 需要動向に関する調査

— スマホ・NEXTの可能性！スマートスピーカー、ヒアラブルの大潮流 —

【調査報告書】

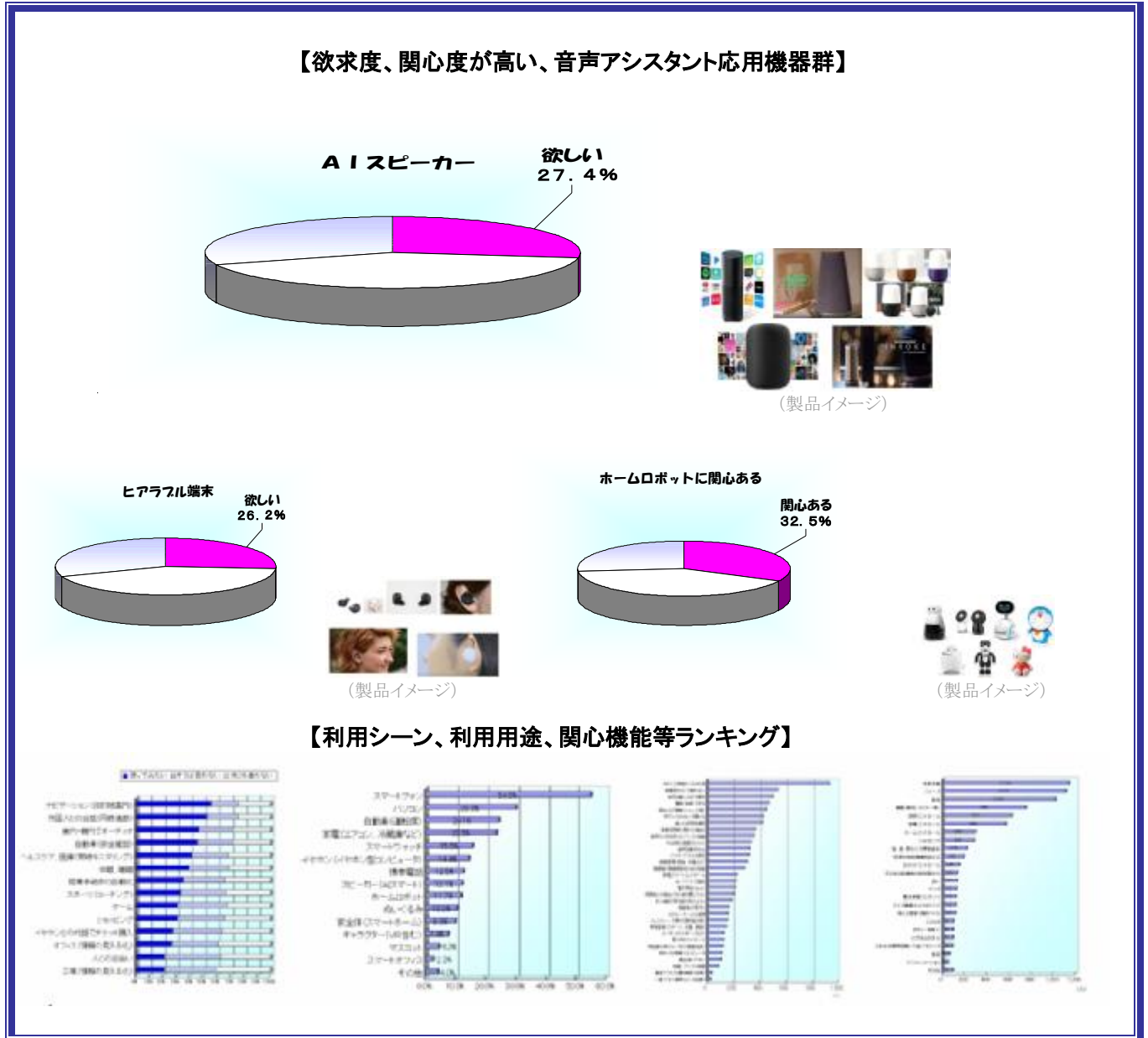
- AIスピーカー、ヒアラブル端末、4人に1人が「欲しい」、関心度高い！
- ヒアラブルのアプリ関心は、ナビゲーション、同時通訳が50%を超える！
- この調査結果は、先端テクノロジーの調査会社、AQU 先端テクノロジー総研 (AQUARIUS 最先端研究所) (代表、子安克昌) がまとめたもので、今回の調査は、インターネットを利用して、2,200人の協力を得て、8月8～10日に行われた。
- Amazon の Echo など知られる、AIスピーカー (スマートスピーカー) が日本でもいよいよ、本格発売される動きとなってきた。海外でヒットしている AI スピーカー (スマートスピーカー) は日本市場ではどのような需要があるのか？ また、

「ヒアラブル」という言葉が注目されはじめているが、これは、**Hear**（聞く）と **Wearable**（身に着ける）を掛け合わせた用語だが、人工知能などとの組み合わせにより音楽を聴く以外にもナビゲーションや同時通訳など、用途が大きく広がるろうとしている。そのヒアラブル端末（ヒアラブルデバイス、スマートイヤホン）に注目し、ヒアラブルはどのような用途に可能性が広がるろうとしているのか？ 今回、2,200人の協力を得て需要調査を実施した。

- 大きな調査項目としては、関心のある音声アシスタントの機器、関心のある、AIスピーカー（スマートスピーカー）の用途、ヒアラブル（イヤホン型コンピュータ）の利用シーン、関心のある、ヒアラブル（イヤホン型コンピュータ）の機能、さらに、AIスピーカー（スマートスピーカー）への期待、ヒアラブル（イヤホン型コンピュータ）への期待などとなっている。
- 今回注目すべきは、AIスピーカーとヒアラブル端末についての欲求度をとらえたところ、「AIスピーカー欲しい」27.4%、「ヒアラブル端末欲しい」26.2%となった。4人に1人強の人が、欲しいということであり、商品の内容を理解できれば、一般に予想以上に普及してゆく可能性がある。
- また、ヒアラブルにおける関心のある利用シーンを尋ねたところ、ヒアラブルのアプリ関心は、ナビゲーション、同時通訳が50%を超える、ということが分かった。
- 回答者のコメントからも気づかされる点が多い。声を発してコミュニケーションする、ということは、パソコンや機械などの操作で指を使っていることがあたりまえの生活になってきている人にとっては、それがごく当然なことであるが、AIスピーカー（スマートスピーカー）では、音声によるコミュニケーションであり、音声を使うことで、新鮮な感覚を呼び起こそうとしている、と回答者のコメントから感じられた。またコメントを読んでいると、人とのコミュニケーションでなくとも、スピーカーとの交流を通して、日常生活に活気が出てくる、という意外な癒し感（効用）のようなものがあることが分かった。
- ヒアラブル（イヤホン型コンピュータ）に対する期待として、どのようなことができるとよいかを尋ねたところ、ヒアラブル端末として、同時通訳やナビゲーション、秘書機能などさまざまな利用への期待が寄せられた。
- とりわけ、「同時通訳できるのは魅力的です。」（25才、女性、会社員）、「同時通訳は嬉しい機能。」（59才、男性、会社員）というような、同時通訳、翻訳機能に期待する人が多かった。国際化が進展する中、翻訳機能、同時通訳の需要は大きなものがあると再認識させられた。また「聴覚障害者の方が補聴器としても使えるとよい。」（67才、女性、専業主婦）、「補聴器の機能があれば良いと思います。」（58才、男性、会社員）というように、聴覚障害、難聴の人にも使えるとよい、とする意見も多くあった。
- ヒアラブルの機能として、ナビゲーション、ノイズキャンセリング、音声フォーカスなどに期待する声も聞かれたが、コメントを読むことで、確かに多くの人々の力強いささえになりうる製品群であると感じられた。
- なお、同社では、「近い将来、日常的に装着するものいずれ、大きな変化がやってくる、とみている。スマートフォンの次の潮流はヒアラブル端末（ヒアラブルデバイス、スマートイヤホン）の可能性が高い。」としている。

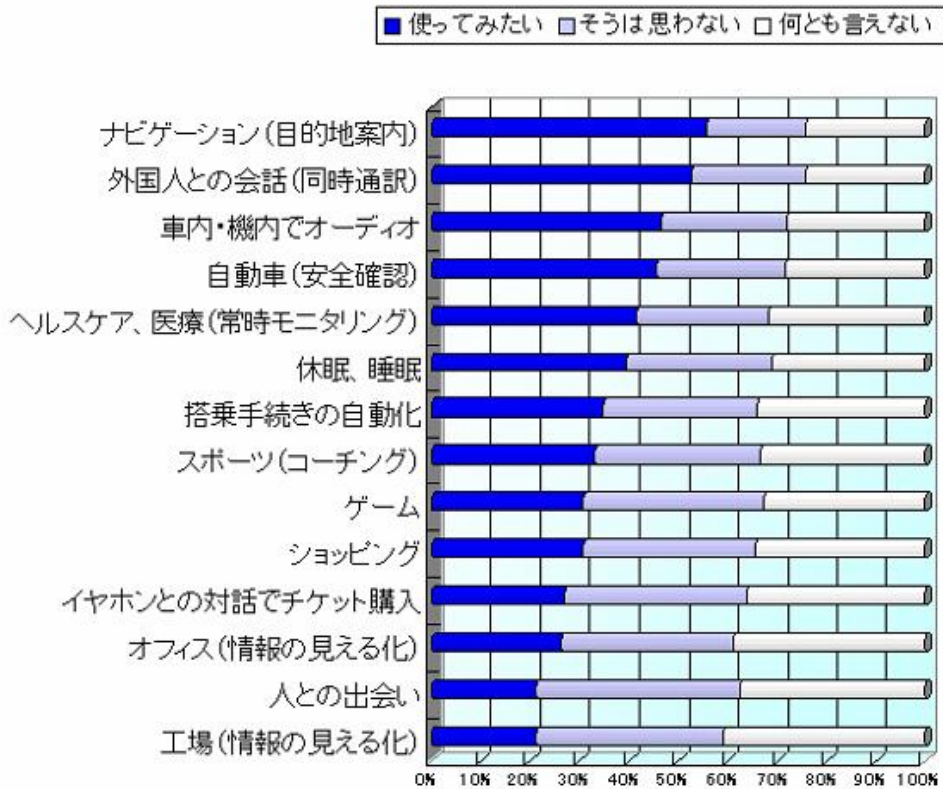
【調査結果の主なポイント】

【調査ポイントの一例】



※調査の一部

【関心のある、ヒアラブルの利用シーン】



【AI スピーカー(スマートスピーカー)への期待】

- 海外でヒットしている AI スピーカー(スマートスピーカー)は、日本市場ではどのような使われ方があるのか、実際の利用者サイドの意見、感想について、貴重なコメントがたくさん得られた。
- 声を発してコミュニケーションする、ということは、パソコンや機械などの操作で指を使っていることがあたりまえの生活になってきている人にとっては、それがごく当然なことであるが、AI スピーカー(スマートスピーカー)では、音声によるコミュニケーションであり、音声を使うことで、新鮮な感覚を呼び起こそうとしている、と回答者のコメントから感じられた。またコメントを読んでいると、人とのコミュニケーションでなくとも、スピーカーとの交流を通して、日常生活に活気が出てくる、という意外な癒し感(効用)のようなものがあることが分かった。
- 使い方の例としては、「普段は音楽プレイヤーとして、緊急時には避難情報などを提供。」(20才、男性、学生)、「音楽やラジオを検索して流してもらえる。」(56才、男性)、「ちょっと得する情報。豆知識的クイズ。」(28才、女性、パート・アルバイト)、「世界・国内ニュースをまとめて聞ける。家電を操作して時短にしたい。音声ショッピングや電子書籍(特に小説)の読み上げ。」(29才、女性、自営業)などが挙げられている。そのような中、子どものいるファミリー層では、「留守番中の子供と会話してくれたり、子供の様子を撮影して親のスマホから見られるようにできるといいと思います。」(40才、女性、専業主婦)、「スマートスピーカーを使

いながら料理をしてみたい。(31才、女性専業主婦)、「赤ちゃんがいるので、家事がはかどるように相手をしてくれるとよい。童謡など歌ってくれたり、読み聞かせをしてほしい。」(39才、女性、専業主婦)といった声があった。

- 高齢化が進む日本社会だが、高齢化を意識した使い方を期待する向きもある。「高齢化社会を迎えるにあたって単身の老人達の見守りや買い物代行などに役立ててほしいですね。孤独死などをできるだけ防いでほしいので期待しております。」(30才、女性、会社員)、「将来一人暮らしになったとき、話し相手になって欲しい。簡単な挨拶など。」(58才、女性、パート・アルバイト)、「一人暮らしのお年寄の話し相手ができるとう孤独感がいやせそう。」(70才、女性、専業主婦)といった声が聞かれた。
- また、便利で生活に潤いを与えてくれるという意味で、さまざまな期待感がある。「ハンズフリーで家電や照明の操作ができるとよい。」(23才、男性、学生)、「宅配注文やタクシーを呼べればいいなと思う。」(26才、女性)、「部屋の温度、雰囲気などから **BGM** を考えて流す。」(35 才、男性、会社員)、「AIスピーカー内蔵のホームロボットを使ってみたい。」(43才、男性、自営業)、「地震災害などの緊急通報があるとよい。私のような聴覚障害者は視覚で通報が確認できると良い。」(72才、男性)など寄せられた。

【ヒアラブル（イヤホン型コンピュータ）への期待】

- ヒアラブル(イヤホン型コンピュータ)に対する期待として、どのようなことができるとよいかを尋ねた。ヒアラブル端末として、同時通訳やナビゲーション、秘書機能などさまざまな利用への期待が寄せられた。
- とりわけ、「同時通訳できるのは魅力的です。」(25才、女性、会社員)、「同時通訳は嬉しい機能。」(59才、男性、会社員)というような、同時通訳、翻訳機能に期待する人が多かった。国際化が進展する中、翻訳機能、同時通訳の需要は大きなものがあると再認識させられた。また「聴覚障害者の方が補聴器としても使えるとよい。」(67才、女性、専業主婦)、「補聴器の機能があれば良いと思います。」(58才、男性、会社員)というように、聴覚障害、難聴の人にも使えるとよい、とする意見も多くあった。
- ヒアラブルの機能として、ナビゲーション、ノイズキャンセリング、音声フォーカスなどに期待する声も聞かれたが、コメントを読むことで、確かに多くの人々の力強いささえになりうる製品群であると感じられた。

 『AIスピーカー及び、ヒアラブル端末の需要動向に関する調査
 ースマホ・NEXTの可能性、スマートスピーカー、ヒアラブルの大潮流ー』

<http://www.aqu.com/ai-speaker-hearable-need/>

◆レポート体裁 プリント製本 A4 版、PDF ファイル 140 頁

ISBN 978-4-904660-33-1

※お問い合わせ連絡先

株式会社 AQU 先端テクノロジー総研

<http://www.aqu.com/>

〒260-0027 千葉市中央区新田町 36-15

千葉テックビル 6FTEL 043-204-1258

FAX 043-204-1316

子安、那須

info@aqu.com
